

全国学力・学習状況調査

今日は、中学3年生と小学6年生を対象に、**全国学力・学習状況調査**が実施されました。**国語、数学、理科**のテストと、**生徒質問紙**と呼ばれる学校や家における勉強や生活の様子についての質問がありました。欠席者が後日受験する関係上、詳しくテスト内容についてはまだ述べるできません。ここでは、問題を見ての簡単な感想を述べたいと思います。



まずは、ここ数年の傾向ですが、**問題の文章量が多い**ことや、**単に知識を問うだけ**の問題が少ないと感じます。

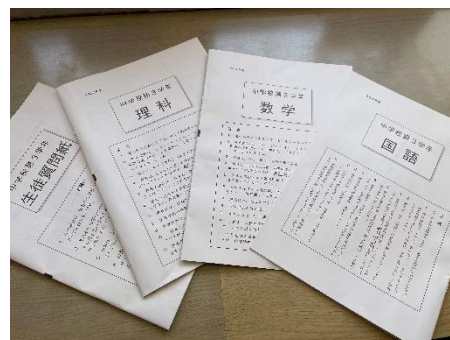
国語は大問4問のうち3問が長文を読む問題でした。**①**はスピーチについて友達から助言をもらう内容です。**②**は長文というよりかは説明文のような問題ですが、「自分の意見文」「コメント」「ウェブページからの資料」の3つを読む問題です。**③**は5ページにわたって書かれた小説の一部です。これらを読むだけでもけっこう時間がかかります。試しに私が各問題を読んでみましたが、**①**が1分15秒程度、**②**が1分30秒程度、**③**は3分30秒程度かかりました。このことから文章の多さや、特に**③**がいかに長いかが、お分かりのことと思います。効率的な読解力や思考力、判断力が必要となります。

数学についても、かつての計算問題ばかりでなく、問題を情報ととらえ、問題解決のための情報からいかに考え、問いに対する解答を導き出すのかが問われています。イメージとしては、将来、社会に出て仕事をする時に、目の前にある課題をいかに解決していくか、その時に、どれだけ数学的思考を使うか、という感じです。

理科の問題が私個人としては一番、驚きました。1問1答型のような知識を問う問題（用語を答える問題）は、1問もありませんでした。問題によっては、中学校の教科書では直接は習わないような問題もありました。今まで習った知識をもとに、問題の条件に応じて知識を活用し、問題を解くものでした。高校入試ではさすがにこのような問題は出題されないと思いますが、これからの社会で活躍するためには、もっている知識を活用する力やどのように問題解決をするかといった思考力が必要であることを感じます。

質問紙については、毎年少しずつ質問が変わっています。おおまかには、学校や家庭における学習面や生活面について質問をしています。なお、質問紙の内容の一部は1、2年生にも後日、質問する予定です。いくつかの質問に対する回答をもとに、太宰府西中学校生徒の実態を分析し、課題解決をめざします。昨年度は、『**学校に来るのが楽しい**』ということが明らかになりましたが、逆に『**家庭学習は全国平均以下**』であることが判明しました。このことから今年度、家庭学習を充実させる取り組みを行います。

このように全国テストを受けることで、学力と学習、生活の課題を明らかにし、これからの生活に活かして



いきたいと思います。

